
「悪性リンパ腫における免疫微小環境の探索」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの検体を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、残余検体やカルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

(西暦で) 1990 年 1 月 1 日 ~ 2023 年 3 月 31 日の期間に埼玉医科大学総合医療センターを受診し悪性リンパ腫と診断され、検査を実施した患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

悪性リンパ腫には腫瘍細胞のみならず免疫担当細胞などいろいろな細胞が集まることによって病巣がつくられています。これらの細胞は腫瘍細胞の排除機構を巧みに回避するのに利用されています。これらの細胞の相互作用のバランスを崩すことによって、治療行う腫瘍免疫療法も注目されています。このことをふまえ予後予測可能なバイオマーカーを検索します。

3. 研究期間

病院長の許可後 ~ 2024 年 3 月 31 日

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

本研究では、診断目的のため生検で得られた残余検体を用いて、免疫細胞マーカーを対象とした遺伝子発現解析を行います。Fluorescence in situ hybridization (FISH) による染色体転座や遺伝子の増幅・欠失等の分子遺伝学的異常との関連も調べます。遺伝子の発現解析とはなっていますが、これは細胞の種類を同定するために用いられるものであり、子孫に受け継がれ得る遺伝的特徴等に関する重要な知見が得られる可能性はありません。またこれらの結果と診療録より抽出した臨床病理学的事項(年齢、性別、血液検査、治療、治療に対する反応、予後など)との関連について統合して解析します。腫瘍周囲の細胞の量をその遺伝子の量から計測するために nCounter という器械を用いますが、この解析は九州大学で行います。

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センターにおいて、研究責任者である東 守洋が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

悪性リンパ腫と診断された患者さんの検査を実施した際に生じた残余検体、検査データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

埼玉医科大学総合医療センター病理部

東 守洋（総合医療センター病理部：教授）（研究代表者）

共同研究者

九州大学病院 赤司浩一 病院長・教授

さいたま赤十字病院病理部 安達章子 部長

深谷赤十字病院病理部 新井基展 副部長

4. 試料・情報の管理責任者

<提供元機関> 埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮好文

<提供先機関> 九州大学病院

5. 試料・情報の提供について

埼玉医科大学総合医療センター病理部で抽出した RNA は研究用識別コードにより特定の個人を識別できないよう加工された状態で、郵送によって九州大学病院に送られ解析され、その結果および RNA 検体は郵送により埼玉医科大学総合医療センター病理部に集積されます。

お問い合わせについて

ご自身の検体やカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター 病理部（東 守洋）

350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

電話：049-228-3522（月曜日～金曜日、10時～17時）

○研究課題名：悪性リンパ腫における免疫微小環境の探索

○研究責任（代表）者：埼玉医科大学総合医療センター 病理部 東 守洋